

競馬場でのプログラムの配置計画に関する研究
-パドックからメインスタンドまでの通路エリアを対象として-
A study on plot planings of a program at racecourses
-About aisle areas from the paddock to the main stand-

○小板橋智博¹, 山中新太郎²Tomohiro Koitabashi¹, Shintaro Yamanaka²**1. 序論****1-1. 研究の背景と目的**

今日, 保育園との連携や女性をターゲットにしたイベントを展開するなどレジャー施設として競馬場整備へのニーズが高まってきた. しかし建物には「ギャンブルの場」としての雰囲気が残り, 利用者層の拡大に対して, 大きな課題となっている. 本研究では施設内で最も人が集まり, 移動が盛んに行われている通路エリアに着目し, 利用者層拡大における問題点や改善点を明らかにすることを目的とする.

1-2 研究方法と研究対象

研究対象として日本中央競馬会が管轄している各競馬場 10 ヶ所の通路エリアを対象とする. 方法として建築系刊行物や案内図から通路エリアの簡略図, 類型化, 考察を行い配置計画の現状, 特徴を把握する.

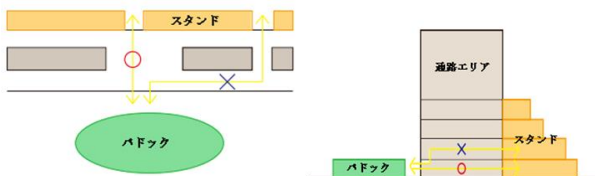


Fig.1 対象とする通路エリアの選定方法

1-3 既往研究と本研究の位置づけ

林¹⁾の研究では設計コンセプトの把握を通じて競馬場の「マス・レジャー」としての空間変遷の状況を明らかにしている. 本研究では競馬場の中からパドック - メインスタンド間と焦点を絞り, その空間でのプログラムの配置計画の分析を主とし, 競馬場でのプログラムの配置の在り方を考察することを本研究の位置づけとする.

2. 競馬場の概要**2-2 パドック**

パドックとはレース前に, 出走馬を観客の前に披露

する場である. パドックでの歩様や動向を見て, 予想の参考にする人も多く, 馬の状態を確認する上では重要な場所となっている.

Fig.2 中山競馬場のパドック
(2016 年 9 月 18 日筆者撮影)**2-3 通路エリア**

通路エリアは競馬場の中で最も人々の動きが活発に行われている場である. 本論文で分析を行う通路エリアではパドック - スタンド間を行き来する人や投票所で並ぶ人, モニターを見るのに立ち止まる人など様々な活動が行われているため, 慢性的に混雑している.

Fig.3 中山競馬場内の通路エリア
(2016 年 09 月 18 日筆者撮影)**2-4 スタンド**

スタンドはレースを観戦する場である. 日本の競馬場のスタンドの特徴としては階段状になっている座席や大きく乗り出した屋根, 柱がないことなどが挙げられる. これらの特徴は日本での近代競馬発祥の地とされる旧根岸競馬場から受け継がれている.

1 : 日大理工・学部・建築 2 : 日大理工・教員・建築

3. パドック-スタンド間の配置計画の分析

3-1 調査概要

案内図・平面図からパドック - スタンド間のプログラムの配置に焦点を絞り簡略図を作成する。そこから得られた情報を基に類型化を行い、現在の配置計画の特徴を明らかにし、今後の計画の在り方を考察していく。なお本研究では投票所・払戻し所、トイレ、垂直動線、レストラン・売店、喫煙所をプログラムと呼ぶ。

3-2 プログラムの種類割の配置

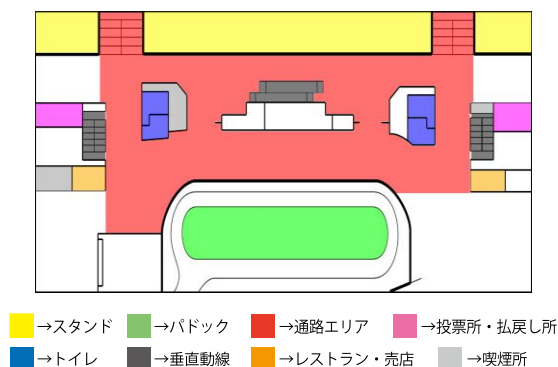


Fig.4 着色による分析例 福島競馬場

基本的に通路エリアには投票所・払戻し所やトイレ、垂直動線、喫煙所が面しているが、全体の色分けした簡略図を見てみると通路エリア、プログラム配置に関して複数のパターンがあることがわかった。通路エリア内に集中しているもので1番多かったプログラムは階段、エスカレーターなどの垂直動線であり、混雑している人々の移動を各階に分散させるためであると思われる。またレジャー要素をもつレストラン・売店などの施設が通路エリアに配置されている例は少ない。一方で福島競馬場では通路エリアに投票所・払戻し所が面していないことやスタンド側の開口部が2つ設けられているため人々の移動がスムーズに行われると考えられる。

3-3 配置計画の類型と傾向

Tab.1 類型化の定義

動線類型	通路エリアの分散,集中
配置類型	通路エリアに対する各プログラムの埋込,隣接の類型
空間類型	建物に対して通路エリアが外部か内部かの類型

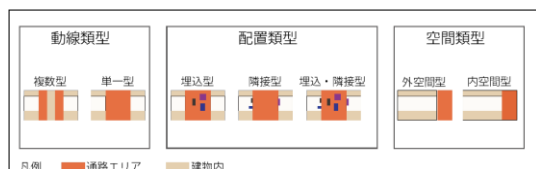


Fig.5 プログラム・通路エリアの類型

Tab.3 各競馬場における類型

名称	動線類型	配置類型	空間類型	名称	動線類型	配置類型	空間類型
札幌競馬場	単一型	隣接型	内空間型	中山競馬場	単一型	埋込・隣接型	内空間型
函館競馬場	複数型	埋込・隣接型	内空間型	中京競馬場	単一型	隣接型	外空間型
福島競馬場	複数型	埋込・隣接型	内空間型	京都競馬場	複数型	埋込・隣接型	内空間型
新潟競馬場	複数型	埋込・隣接型	外空間型	阪神競馬場	単一型	埋込・隣接型	内空間型
東京競馬場	単一型	埋込・隣接型	内空間型	小倉競馬場	複数型	埋込・隣接型	内空間型

類型として中央場所(中山, 東京, 京都, 阪神の4つの競馬場とする)では単一型かつ、埋込・隣接型,内空間型が多く、ローカル場所(中央場所以外の競馬場)では複数型かつ、埋込・隣接型,内空間型が多い傾向がみられた。分析前は中央場所は入場人員数を多くさばかなくてはいいけないため動線ルートを多くしているのではないかという考えであったが、実際には単一型の方が割合として高いなど反対の傾向にあることがわかった。ローカル場所は中央場所に比べて入場人員数が少ないため各プログラム、スケールなどが中央場所より小さく、もしくは少なくすることができ、その分動線ルートを多くすることができるのではないかと考えられる。

4. まとめと展望

プログラムにおける配置計画の分析,類型化から各競馬場の現状,特徴を把握することができた。特に福島競馬場においては左右対称に配置されているプログラムや通路エリア内に投票所が面していないこと、またスタンド側の開口部が2つ存在することなど人々の移動がスムーズに行える配置計画という点では、「ギャングルの場」というイメージを無くすための方法がとられていることが分かった。今後はプログラムごとに焦点を当て、より細分化した分析を行う必要があると考える。

5. 参考文献

- 1) 林正樹「建築系刊行物を用いた競馬場の研究」, Hippiophile,56号,2014年
- 2) 「近代建築」近代建築社,22巻,8号,PP89~93,1968年
- 3) 「建築と社会」新建築社,80巻,933号,PP84~87,1999年
- 4) 「近代建築」近代建築社,65巻,2号,PP47~54,2011年
- 5) 「近代建築」近代建築社,66巻,3号,PP49~78,2012年
- 6) 日本中央競馬会ホームページ
[http://www.jra.go.jp/\(2016.09.19\)](http://www.jra.go.jp/(2016.09.19))